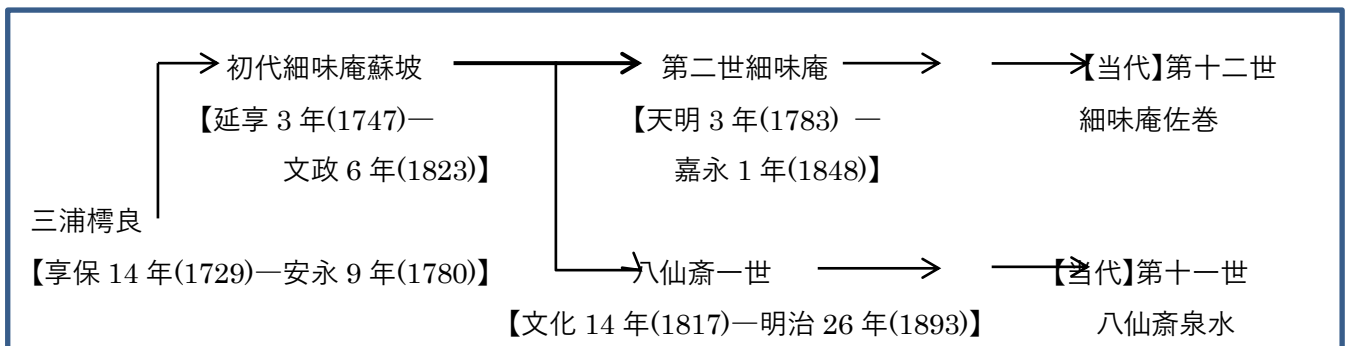


■「狂俳」について

狂俳は、和歌、連歌、俳諧と続く**日本固有の短詩文芸**から派生したひとつで、「**題**」＋「**十二音（五十七あるいは七十五）**」で構成される最短詩形で、当初は「冠句」等と呼ばれた。江戸中期の俳諧人、志摩国生まれの**三浦樗良**（ちよら）に始まるといわれ、当初は「冠句」と呼ばれた。樗良は、安永2年（1772）に岐阜に滞在したという伝承があり、美江寺の俳諧人、初代**細味庵蘇坡**に冠句の指導をしたという。その後、初代は二世細味庵、弟子**八仙齋**一世とともに俳諧の形態に準じ作法、様式を整え、これを岐阜調として狂俳の普及に努めその名称も浸透した。狂俳の活動は、細味庵と八仙齋の二宗家によって道統が守られている。狂俳は、東海地方を中心に展開され、江戸後期、明治後期～大正期、第二次世界大戦後に特に隆盛した。**東海樗流会**は岐阜県を中心に最盛期には2,000名の会員を数え、現在は、約50結社、約400名でその伝統を守り続けている。**岐阜中社**は、金華地区の住民を中心に**平成29年1月**に約30名で**発足**した。



狂俳発祥時の門人の流れ

■岐阜公園所在の「狂俳発祥の地」石碑について

岐阜県下の結社を組織した「**樗流（ちよりゅう）会**」が**昭和25（1950）年**に**発足**し、同33（1958）年に「**東海樗流会**」と改称し、季刊誌「**樗流**」誌を発刊した。同47（1972）年に**岐阜公園内に石碑「狂俳発祥の地」**を**建立**。石碑の揮毫は、当時の上松陽介市長（東海樗流会顧問）である。



石碑表

石碑裏碑文

伊勢山田の人三浦樗良は、蕉風漸く衰えんとするを憂い冠句と言う十二字調を創案し安永二年岐阜の地に滞在、厚見郡今泉村在初代細味庵東坡に教伝されたるに始まる東坡は之を深く研究し俳諧に準じて形態を改め前句と呼称し更に天保年代に現在の狂俳と改称するに至る爾來細味庵並に八仙齋の二宗家により 県下はもとより広く東海各地に伝へ今日の隆昌を見るに至る 憶うに狂俳は世界の最短詩にして極めて文質彬彬たる格調高い文芸と云うべく 今回同好会の会員相計り由緒ある此の地に永く後世にその由来を伝えんとする所以なり 昭和四十七年十一月十六日

■「狂俳発祥の地」

東海樗流会が岐阜公園を「狂俳発祥の地」とされるのは、狂俳の宗匠であった**初代八仙齋龜遊**が現在の**岐阜公園一画に草庵居住を構えていた**とされていることによる。なお「発祥の地」石碑に隣接し、八仙齋龜遊の石碑、東海樗流会三十周年記念石碑がある。